

医学部附属病院

自閉症スペクトラムを持った方々の就労支援

担当学部等 医学部附属病院

担当学科等 小児科

担当者 荒川 浩一 教授・岡田 恭典 講師

◎事業概要

今回の事業は、自閉症スペクトラムを持った方々が成人期に地域で当たり前暮らししていくうえで欠かせない就労支援セミナーの実施が、本事業の主たる目的である。障害者雇用率の義務化により、県内各企業ともその門戸が拡大しているとはいえ、早期離職率が高い現状である。本障害を持つ方々は、ハードスキルが高いものの、ソフトスキルに特に支援が必要であり、それには、企業、産業保健師、産業医、就労支援員の自閉症スペクトラム障害の正しい理解と、障害特性に配慮した就労支援の実施が必須である。上記対象者に対する講演会および実践セミナーを行う。

◎実施事業等

今回は、企業の人事担当職員、産業保健師、地域保健師、産業医、就労支援員、福祉施設職員、行政職員、福祉職員、特別支援学校教員などを対象に、セミナーを企画した。講師には、1)ノースカロライナ大学シャーロットTEACCHセンター留学後、現在長野県を拠点として日本各地でコンサルテーションを始め、自閉スペクトラム症をもつ方の成人期の支援をされているNPO法人SUN理事長の藤村出氏、2)大阪大学連合大学院、子どもの発達科学研究所の和久田学氏、3)大阪大学連合大学院の服巻智子氏に来て頂き、藤村氏にはICFに基づく障害者支援の実践、自閉スペクトラム症の特性についての講演会、和久田氏には、当事者支援と企業風土改善などをテーマに実践的なセミナーを、服巻氏には、TTAPを用いた就労支援というテーマで、ワークショップを開催した。

◎期待される成果

成人期の支援には、就労現場における支援とともに、生活支援や地域支援が必要である。それには、企業の人事担当職員、産業保健師、地域保健師、産業医、就労支援員、福祉施設職員、行政職員など、他職種連携は欠かせない。今回開催したセミナーはいずれも多くの方に参加してもらえることができた。自閉スペクトラム症とは、どのような障害で、どのような特性があり、そうした特性にはどのような支援が不可欠なのか、ICFの精神とは何で、企業風土を高める必要性、TTAPなど、科学的根拠に基づくアセスメントの重要性など、職種の垣根を超えて、共通理解することができた。またセミナーを通して県内各地で、独自で活動していた専門家を線で結ぶこともできた。

こうした職種間を超えた繋がりの中で、各専門職が提供する支援が、自閉症スペクトラムを持った方々が成人期に地域で当たり前暮らししていくことに結びつくことを確信している。